

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3270400900
法人名	有限会社 Up Well
事業所名	グループホーム たくひの里
所在地 (電話番号)	出雲市大津町3645 (電話) 0853-20-1770

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成20年3月6日	評価確定日	平成20年3月20日

## 【情報提供票より】(20年 2月23日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 20 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 9 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	8.4 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷金	有( ) 円 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円) <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 2月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	0 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	島根県立中央病院、海星病院、まつだ歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の中にある小高い丘の上にホームはあり、山間の木々や畑など、身近に四季を感じることのできる環境に囲まれている。木造瓦葺き二階建ての外観で、内部は壁や床、柱や天井の張りといった各所に木材を多く用いており、落ち着いてゆったりとした生活を送ることができるといった印象を受ける。また、窓は二重ガラスであり、設置者の、利用者に心地良い生活を提供したいという思いが伝わってくる。共用スペースでは、利用者がそれぞれ少人数で、自分たちがやりたいことや望むことを無理なく行っており、自由で安らかな時間が感じられた。何よりも、利用者の送ってきた生活の継続性を重視し、家族や地域社会との関係の中で、利用者が安心して暮らしているような支援がなされており、調査当日の利用者の笑顔や穏やかな表情をはじめ、職員の聞き取りや対応などから、利用者を第一に考え支援がなされていることが確認できた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回改善を求められた項目については、改善に向けての積極的な対応がなされており、加えて、指摘がなかった項目に関しても、自己評価や外部評価を通して、より利用者本位のサービス提供、より良い質の確保を目指した取り組みがなされており、その成果も窺い知ることができる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員共に評価の意義を十分に理解しており、全職員で自己評価を行い、より利用者本位のサービス提供を目指している。そして評価を基とし、さらにホームの質の向上に取り組もうとする姿勢が窺えた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度定期的に開催され、ホームの運営状況等が報告され、またサービスの提供等に関して協議・検討がなされている。会議録はファイリングし全職員への周知が図られ、必要に応じ会議でも取り上げ、ホームの運営やサービス改善に生かす取り組みがなされている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時に提供記録にも目を通してもらう働きかけも含め、利用者の状況報告はしており、状態急変時には都度電話にて報告がなされている。ホームと行政の窓口は明示され、外部委員も委嘱されている。面会時や家族会の折などで、意見や要望を聞き、出された意見や要望については、必要に応じてミーティングで話し合い、ケアや業務に反映するよう取り組んでいる。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	老人会や公民館行事等に参加する利用者もあり、地域のボランティア20名程度(5グループ)が、毎週1回ホームを訪れ、様々な活動を行っており、地元のパティシエのケーキ作りや、ハンドケアなどのボランティアもある。近隣の保育園や小学校との交流も盛んで、地元とのつながりは深く、地域に根付くホーム作りが積極的に展開されている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念は、誰が見ても分かり易い平易な言葉で書かれ、明示されている。内容も、「地域との交流を通して、楽しく豊かな生活を利用者に送っていただくことが盛り込まれている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議等の機会を通して、理念の実現に向けてのケアのあり方などについての協議・検討もなされており、実現するに当たっては、何よりもまず、「利用者に対して、職員同士で、或いはホームに関係する全ての人に対して、“ノー”と言わない」ことを心掛けている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会や公民館行事等に参加する利用者もあり、地域の神社の祭りには全員が参加している。地域のボランティア20名程度(5グループ)が、毎週1回ホームを訪れ、様々な活動を行っており、地元のパティシェのケーキ作りや、ハンドケアなどのボランティアもある。地元の保育園や小学校との交流も盛んである。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員ともに、評価の意義は理解しており、全職員で自己評価を行い、協議・検討を行っている。より利用者本位の質の高いサービス提供を目指しつつ、前回の外部評価で指摘があった事項に関しては、改善に向けて積極的な取り組みがなされている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度定期的開催され、ホームの運営状況等が報告され、またサービスの提供等に関して協議・検討がなされている。委員会から出された意見は、必要に応じて会議で取り上げ、ホームの運営、サービス改善に生かす取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、生活保護や自立支援(障害者)、知的障害等の利用者の状況もあることから、市の担当部署への情報提供と報告を兼ね、相談するなど、密に連携を取っており、サービスの質の向上を目指し取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には利用者の状況報告に加え、提供記録にも目を通してもらう働きかけもされており、状態急変時には都度電話にて報告がなされている。 また、毎月ホームの行事や利用者の活動を写した写真を掲載したホーム便りが配布されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームと行政の窓口は明示・説明され、外部委員も委嘱されている。 面会時や家族会の折などで話す時間をできる限り設け、意見や要望を聞くようにしており、出された意見や要望については、必要に応じてミーティングで話し合い、ケアや業務に反映するよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの関係の中でケアが提供されることの重要性を十分に理解している。 何よりも職員の交代が少なく、顔なじみの職員でケア提供がなされていることは評価できる点である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に関しては計画を立て、順次参加しており、復命により全職員での共有化も図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡協議会に加入し、研修等へ参加するとともに、情報交換も行いサービスの質の向上を目指して。また、実践者研修を通して他のグループホームとの交換実習も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学や、体験利用など馴染みの関係をつくった上でサービスを開始する体制は取られてはいるものの、様々な事由により、サービス開始前に利用者の自宅を訪問しての情報収集がなされていないケースが多い。	○	いきなりサービス提供ありきではなく、場合によっては見学や、自宅へスタッフが何度か行ったり、遊びにきてもらったりし、「馴染みの関係」を作ってからサービス提供が望まれ、加えて、「地域の中での生活」や「生活の継続性」を考えたとき、利用者の送ってきた生活を捉えておくことは何よりも重要であり、自宅を訪問しての情報収集が望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者主体のゆっくりとした時間の中で、穏やかに暖かい生活が送れるよう、全職員が意識統一を図りケア提供がなされている。訪問調査日のケアや、職員のヒアリングからもそのことが窺えた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや望みを聴き、意向把握が困難な場合には、家族から話を聞いたり、日々の生活の中での行動や言動を観察することで、意向を把握しそれに添うよう努めてはいるものの、サービス開始前に利用者の自宅を訪問しての情報収集がなされていないケースが多い。	○	利用者が「望む生活」、「あるべき人生」を送ることの実現に向け、様々なスキルで利用者の思いや意向の把握に努め、利用者本位の生活の実現とその継続に向けてのケア提供が望まれ、加えて「生活の継続性」を考えたとき、利用者の送ってきた生活を捉えておくことは何よりも重要であり、自宅を訪問しての情報収集が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に全利用者について、全職員でアセスメントを行い、協議・検討を重ね、課題の把握を行い、介護計画に反映し共有化を図るような取組みが行われており、毎月のモニタリングに際しては、本人や家族の意向等も反映させるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しが行われ、それぞれに合った計画の策定がなされている。 また、利用者の状態等に変化があった場合には、その都度見直しを行うなど、柔軟な対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族のそれぞれの状況に合わせ、必要な支援には柔軟に対応している。ホームの“ノー”と言わないという対応方針からもそのことを窺い知ることができる。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、入居前の主治医をそのままかかりつけ医とし支援している。受診に関しても家族の対応ができない場合は、ホームで対処し、結果の報告も行っている。主治医を変更しなければならない場合は、本人、家族と十分に協議がなされ、その意向に沿い決定されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師は配置されてはいないものの、重度化や終末期にケアについては、ホームとして出来ること出来ないことをきちんと家族に伝え、主治医とも協議し、医療機関の協力を得ながら、利用者が安心して終末期を迎え、過ごせるよう支援・取り組みがなされている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室に入る時は必ずノックや声掛けがなされており、衣服の乱れや汚れ、排泄介助の際もプライバシーを大切に、そっとカバーするような対応を心掛けるなど、利用者の尊厳に十分な配慮がなされている。また、記録等の個人情報に関してはスタッフルームで管理がなされ、その取扱いに注意が払われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの利用者の活動にも、一人ひとりのペースに合わせ、能力等に応じた利用者主体のケア提供が見受けられ、ヒアリングからも、決して職員の都合に合わせる事のない柔軟なケア提供に対する心遣いが窺えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を聞き、それぞれの状態に合わせての内容で食事は提供されている。月に数回、利用者と職員全員での食事会も催され、調理やおやつ作りを状況に応じて行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝風呂こそないが、利用者が希望した時に入浴できしており、毎日入浴する人や夕食後(就寝前)に入浴する利用者もいる。また、入浴の拒否がある利用者に対しては、無理のないタイミングでの誘導がなされ回数も確保されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、個々の能力に応じ得意なことやできることを活かす場を作り、ホーム内での役割を果たし、生活に楽しみと張り合いが持てるよう支援を行っている。また、昔からの地域行事に参加したりするなど、外出の支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の意向・希望を踏まえた近所への散歩をはじめ、買い物や理美容院の利用、季節に応じた外出行事も実施されており、外出の機会が多い。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、利用者、家族等とも自由に入出入りができる。また、外出傾向者など利用者個々の行動パターンを把握し、安全面での配慮を行っている。夜間については、防犯上の理由により施錠されているが、家族等の来訪対応は行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いのもとで、定期的に非難訓練が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取カロリー数、水分摂取量も目標を決め、利用者それぞれのカロリー制限や咀嚼能力などの状態に合わせて柔軟に対応しており、摂取状況の把握もなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材をふんだんに用いた日本的な共用空間であり、多くの絵画やなどを掛けるなどし、目を楽しませる工夫が見られる。食堂を兼ねた居間は吹き抜けで、落ち着いた環境である。各所に季節の花も置かれており、季節感も感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に置かれたホーム設置の家具は木目調であり、利用者の家から使い慣れたテーブルや椅子、テレビや家具の持ち込みもあって、利用者個々の希望にそった居心地のよい環境づくりがなされている。		